

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	世界建築史 (History of World Architecture)		
ナンバリングコード	L30408	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 応用レベル 建築計画
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 前期
必修・選択区分	コース選択必修: 建築設計コース 選択: 建築工学コース、住居・インテリアコース、環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L040801	クラス名	-
担当教員名	島岡 成治、石井 翔大		
履修上の注意、履修条件	特にありません。建築は、自分の目で見て、その時感じたことを言葉にして考えることが大切です。講義の時に見るスクリーン上の写真だけでなく、西洋建築史以外の建築も含め、普段から写真集など、あるいはできれば本物を見ることを勧めます。		
教科書	西洋建築史図集(彰国社) 日本建築学会編 西洋建築史概説(彰国社) 森田慶一著		
参考文献及び指定図書	西洋建築入門(東海大学出版会) 森田慶一著 ゴシックということ(学芸出版社) 前川道郎著 西洋建築史 [建築学入門シリーズ] (森北出版) 吉田鋼市著 ※その他、講義中に適宜指示します		
関連科目	日本建築史、近代建築史、設計製図1～4		

○基本情報	
授業の目的	日本語の「建築」という言葉は、古代ギリシア語に語源をもつ西洋の言葉の訳語といわれています。したがって、西洋における建築の概念は、今日私たちがよい建築とはどのようなものかを考えるとき、とても重要であるといえます。また、西洋の歴史に見られる数々の建築作品には、すぐれて人間の精神性を象徴するものとして、今日においても学ぶべき多くのことを見いだせます。西洋建築の基本的知識を学ぶことによって、学生自身が建築と建築をつくることについて学び、考えるための具体的手がかりを見いだすことが目的です。
授業の概要	18世紀頃までの西洋の建築を歴史に沿って紹介します。西洋における「建築」の語源から、古代ギリシア建築からはじめ、古代ローマ建築、初期キリスト教建築、ビザンチン建築、ロマネスク建築、ゴシック建築、ルネサンス建築、マニエリスム建築、バロック建築と展開する建築の流れを学ぶことによって、それぞれの時代における建築空間の人間にとっての意味を考えます。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「ディスカッション、ディベート」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	①西洋の建築に対し関心を持ち、特に興味を抱いた建築空間について画像や図を通じてイメージすることができる。		10点	15点
【知識・理解】	②西洋建築の歴史的流れやそれぞれの時代の代表的な建築作品など、西洋建築史についての基本的知識を身につけている。	25点		
【技能・表現・コミュニケーション】	③関心をもった西洋建築の歴史様式やそれぞれの時代の建築空間について、各自の興味の視点から説明をすることができる。	15点	10点	5点
【思考・判断・創造】	④「建築」とは人間にとってどのような意味をもつのか(もちうるのか)考えることができる。	15点	5点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
課題・レポートは提出することが単位取得の最低条件です。その内容については、授業内で説明します。主として3回あるまとめの講義の時に返却し、講評・解説します。期末試験の返却と講評は、試験実施後のオフィスアワーの時間に行います。課題及び期末試験の評価は、単位を修得するために達成すべき到達目標に対し、以下の達成水準を目安とします。  S:よく満たしている。 A:ほぼ満たしている。 B:一応満たしている。 C:一部分満たしている。  また、3回のまとめの講義において、積極的に優れた内容を発言した者は、記録して加点することがあります。	

○その他	
個別の学習相談は、授業終了後もしくはオフィスアワーなどの時間に担当教員の研究室に来てください。  フィードバックについては、次回の授業内等で適宜行います。	

## 2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	世界建築史 (History of World Architecture)	授業コード	L040801
担当教員 島岡 成治、石井 翔大				
<b>学修内容</b>				
<b>1. 西洋における建築の概念と古典主義</b>				
まず、西洋建築を学ぶことの意義を説明します。その後、西洋建築各時代の代表的作品のいくつかを取り上げて、その空間的特質の違いを説明しながら、古典主義という言葉を手がかりに、西洋建築史全体の大きな流れを概説します。				
予習	講義参考図書などにより、興味のある西洋建築史上の建築3つを取りあげ、その特徴を調査する。			約2時間
復習	配布課題により、建築の語源及び最も興味のある建築様式について自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>2. 古代ギリシア建築</b>				
古代ギリシア文化の歴史的背景と造形的特徴についてふれた後、古代ギリシア神殿の基本的形式とオーダーについて説明し、具体的な神殿の造形的特徴について歴史に沿って説明します。特に、アルカイック時代から古典時代へのギリシア彫刻の洗練と比較しながら解説します。また、可能な範囲で劇場など神殿以外の他の建造物についても紹介します。				
予習	配布資料と教科書(『西洋建築史図集』p10-12及び解説)等により、古代ギリシア建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、古代ギリシア神殿の造形的特徴と最も興味をもった建造物について自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>3. 古代ギリシア建築と古代ローマ建築</b>				
改めて古代ギリシア建築の造形原理について説明した後、その影響を受けた古代ローマ建築のもつ古代ギリシア的造形と古代ローマ独自の造形的特徴を解説します。そして、神殿を中心に、古代ギリシアと古代ローマの建築の違い、特に構造とオーダーにおける両者の違いを説明します。				
予習	配布資料と教科書(同上p13-17, 20及び解説)等により、古代ギリシアと古代ローマ建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、古代ギリシア建築全体の特徴と最も興味をもった建造物について自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>4. 古代ローマ建築</b>				
古代ローマ建築の歴史的変遷を踏まえた上で、フォルム、バシリカ、凱旋門、劇場、住居、宮殿など、神殿以外に華々しく建造された古代ローマ建築を取り上げ、それらの構造、空間構成、造形的特徴などについて解説します。また、古代ローマの都市についても説明します。				
予習	配布資料と教科書(同上p18, 19, 22-24及び解説)等により、古代ローマ建築の歴史変化について調査する。			約2時間
復習	配布課題により古代ギリシアとローマ建築の違い、最も興味をもった建造物について自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>5. 古代建築についてのまとめ</b>				
まず、古代ローマ建築の補足説明(主として宮殿、住居)をした後、古代建築全体のまとめをします。そのため、予め提出しておらった古代ギリシア建築と古代ローマ建築についてのレポートと毎回の課題の内容をもとに、具体的な建築作品の画像を見ながら、解説と討論会を行います。				
予習	配布資料と配布課題によりながら、古代建築の中で最も興味をもった様式と建造物について考えをまとめる。			約2時間
復習	第1～5回の講義を振り返って、西洋建築における古代建築の意味について考えをまとめる。			約2時間
<b>6. 初期中世の建築</b>				
古代ローマにおける初期キリスト教建築とビザンチン建築を取り上げます。初期キリスト教建築においては、有心式とバシリカ式という二つの平面形式の特徴などについて、ビザンチン建築においては、光の建築としてのハギア・ソフィアの成立とその後のイスラム建築への影響などについて説明します。				
予習	配布資料と教科書(同上p25-30及び解説)等により、キリスト教と初期中世建築の関わりについて調査する。			約2時間
復習	配布課題により、有心式とバシリカ式の違い、最も興味をもった建造物について自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>7. 中世ロマネスク建築</b>				
ブレ・ロマネスクからロマネスクへの歴史的背景、修道院文化の重要性、ロマネスク教会堂の全体的特徴などを説明した後、ロマネスク建築が地域によって異なることを、主にドイツとフランスのロマネスク建築をとりあげて解説します。また、ラテン的特質を失わないイタリア・ロマネスク建築などの空間的特質を説明します。				
予習	配布資料と教科書(同上32-38及び解説)等により、ドイツとフランスのロマネスク建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、中世ロマネスク建築で最も興味をもった建造物について自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>8. 中世ロマネスク建築とゴシック建築</b>				
12世紀以降のフランスのロマネスク建築、特に、プロヴァンス地方に見られる「聖なる空虚」としてのシトー派修道院のロマネスク建築について空間的特質を説明します。そして、パリ近郊にあるサン・ドニ修道院付属教会堂におけるゴシック建築の成立とその光の建築としての空間的特質を説明します。				
予習	配布資料と教科書(同上p38-39及び解説)等により、シトー派修道院とフランスゴシック建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、ロマネスクとゴシックの違い、最も興味をもった建造物について自分の考えをまとめる。			約2時間

○授業計画	科目名	世界建築史 (History of World Architecture)	授業コード	L040801
担当教員 島岡 成治、石井 翔大				
<b>学修内容</b>				
<b>9. 中世ゴシック建築</b>				
フランス・ゴシック建築について、特に初期、盛期、後期と、構造や平面構成やステンドグラスの光の在り方などがどのように変化したか、パリ周辺のイル・ド・フランスでの展開を追います。その後、ドイツ、イギリス、イタリアなどのゴシック建築の特徴を概説します。				
予習	配布資料と教科書(同上p39-46及び解説)等により、フランスとそれ以外のゴシック建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、フランスとそれ以外のゴシック建築の違いについて自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>10. 中世建築のまとめ</b>				
まず、ゴシック建築の補足説明として、イタリア・ゴシック建築におけるラテン的特質によって、この地がルネサンスの発祥の地となることを説明します。その後、中世建築全体のまとめをします。そのため、予め提出してもらった中世ロマネスク建築と中世ゴシック建築についてのレポートと毎回の課題の内容をもとに、具体的な建築作品の画像を見ながら、解説と討論会を行います。				
予習	配布資料と配布課題によりながら、中世建築の中で最も興味をもった様式と建造物について考えをまとめる。			約2時間
復習	第6～10回の講義を振り返って、西洋建築における中世建築の意味について考えをまとめる。			約2時間
<b>11. 近世イタリア・初期ルネッサンスの建築</b>				
古代ギリシャ・ローマの再生として誕生したルネサンス文化の歴史的背景とルネサンス建築の造形の基本的特徴を把握した後で、フィレンツェに始まる初期ルネサンス建築を歴史の流れに沿って紹介し、それぞれについて、その造形的特徴を説明します。特にアルベルティやブルネレスキといった建築家の活動に着目します。				
予習	配布資料と教科書(同上51-52及び解説)等によりルネサンスの意味とその建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、ルネサンスの文化的意義と建築・美術に果たした意味について自分の考えをまとめる。			約2時間
<b>12. 近世イタリア・盛期ルネサンスとマニエリスムの建築</b>				
フィレンツェで起きた初期ルネサンス建築の広がりから、ローマにおけるブラマンテに代表される盛期ルネサンスの建築、さらにはミケランジェロに始まるマニエリスム建築までを歴史の流れに沿って紹介します。それぞれについて、その造形的特徴を説明します。特にパラディオのヴェネツィアとヴィツェンツァでの建築活動や、ヴィニョーラ、ジュリオ・ロマーノらの建築作品における空間的特質に着目します。				
予習	配布資料と教科書(同上p52-56及び解説)等により、ルネサンスからマニエリスム建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、マニエリスムまでの歴史的変化変化と最も興味をもった建築家と作品について考えをまとめ			約2時間
<b>13. 近世イタリア・バロック建築</b>				
ミケランジェロに始まるマニエリスム建築からサン・ピエトロ大聖堂に結実するイタリア・バロック建築の造形的特徴を、ペルニーニ、ボルロミーニ、ガッリーニなどイタリアの個性的な建築家たちの作品を取り上げ、その空間的特質を説明します。				
予習	配布資料と教科書(同上p63-65及び解説)等により、イタリアバロック建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、バロック建築の造形的特徴と最も興味をもった建築家と作品について考えをまとめる。			約2時間
<b>14. イタリア以外の近世建築</b>				
ルネサンスからバロックにかけて、イギリス、フランス、ドイツ、オーストリアなど北方ヨーロッパの絶対主義王制と結び付いて壮大に建設された、ルーブル宮やヴェルサイユ宮などの建築の造形的特徴について、イタリアと比較しながら説明します。また、バロック後期に始まり、室内装飾に用いられたロココ様式についても紹介します。				
予習	配布資料と教科書(同上p57-62, 65-73)等により、イタリア以外の近世建築について調査する。			約2時間
復習	配布課題により、イタリア以外の近世建築の中で最も興味をもった建築家と作品について考えをまとめる。			約2時間
<b>15. 近世建築のまとめ</b>				
事前に近世建築についてのレポートを提出してもらいます。その提出されたレポートと毎回の課題の内容をもとに、具体的な建築作品の画像を見ながら、解説と討論会を行います。また、西洋建築全体についてのまとめも行います。				
予習	配布資料と配布課題によりながら、近世建築の中で最も興味をもった様式と建造物について考えをまとめる。			約2時間
復習	第11～15回の講義を振り返って、西洋建築における古典建築の意味について考えをまとめる。			約2時間
<b>16. 期末試験</b>				
80分、小論形式。 ノート及び講義中に配布した資料は持ち込み可。 自分の学んだこと、感じたこと、考えたことをきちんと自分の言葉で書くことが大切です。				
予習	これまで課題等によりながら、最も興味をもった様式と建造物の歴史的意義について自分の考えをまとめる。			約2時間
復習	改めて、私たちにとって建築とはどのようなものでありうるのか、西洋建築の歴史的意義から再考する。			約2時間